

【視察調査報告書】

委員会名	都市環境委員会	
委員名	【委員】9名 馬場貴大委員長、前田佳子副委員長、西室真希委員、富永純子委員、 川村 奈緒美委員、渡口 禎委員、福安 徹委員、相澤耕太委員、鈴木勇次委員	
日程	令和4年（2022年）5月11日（水）～5月13日（金）	
詳 細		
視察日及び視察先	5月11日(水) 新潟県 長岡市	
視察項目	「中心市街地のまちづくりについて」 (1) 米百俵プレイス「ミライエ長岡」 (2) 官民連携による公共空間の活用（アオーレ長岡）	
概要	<p>【視察目的】</p> <p>新潟県長岡市は、全国初の複合施設「アオーレ長岡」の設立等により、中心市街地活性化の取り組みを行っており、昨年度は、コロナ禍を踏まえた官民連携による公共空間の利活用、居心地の良さの向上と賑わいを市域全体にひろげるまちづくりの取り組みが評価され、国土交通省の「新しいまちづくりのモデル都市」に選定された。現在、同市では人づくり・産業づくり・にぎわいの拠点として、交流スペース、図書館、コワーキングスペース、ラボなど複数の機能を備えた「米百俵プレイス ミライエ長岡」を整備中である。本市においては、八王子駅南口集いの拠点整備事業を進めていることから、こうした複合施設の機能面や官民連携といったソフト面について学ぶため、同市の視察を実施した。</p>	
	<p>【視察要旨】 (1) 米百俵プレイス「ミライエ長岡」について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・UR都市機構が施行者である「大手通坂之上町地区市街地再開発事業」 ・全4街区のうち一部を市が取得し、「ミライエ長岡」として整備。 ・「人材育成と産業振興を総がかりで支える地方創生の拠点」として、必要な機能を取り入れ、アオーレ長岡周辺と合わせ、2拠点の回遊性を高めることを期待。 <p>【機能面の特徴】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「まちなか図書館」「子どもラボ」「若者ラボ」「歴史人物展示」他、産業イノベーション拠点、にぎわい拠点としてのスペースあり。各機能が連携することで横串を刺し、ミライエ長岡のコンセプトの実現に向けた相乗効果を狙う。 ・各機能を区切ることなく、自然と連携・融合するようモザイク状に配置。 	





「人づくり・学びの場」、「産業づくり・交流の場」、「にぎわい」の機能を備える
 (「ミライエ長岡」リーフレットより)

【運営面の特徴】

- ・運営方法は、オープン当初は市の直営とするが、図書館の窓口業務やイノベーション拠点のサロン運営業務など、可能な部分は委託とし、民間事業者の力を最大限に活用する考え。
- ・市内既存施設の見直し・統廃合により、まちなかの類似機能を整理し、全体の施設維持管理費・運営費を抑制した形で整備を進めている。

【官民連携について】

- ・市内4大学1高専、商工会議所等との連携による「長岡版イノベーションの拠点」を導入機能の一つとしている。
- (例)「子どもラボ」➡ 学校の授業では体験できない学び、長岡市ならではの学びを提供するため、大学や地元企業との連携によりプログラムを実施。
- 「まちなか図書館」➡ 市民に気軽に・繰り返し利用され、愛される図書館を目指し、持続可能な運営や居心地の良い場所づくりを進める。なお、魅力的なサービス利用のため、世代別のインタビューによるニーズ調査を実施した。

(2) 官民連携による公共空間の活用（アオーレ長岡）について

【アオーレ長岡について】

平成24年4月オープン。老朽化した既存の厚生会館の建て替えにあたり、市役所、議場、市民交流ホール、アリーナ、屋根付き広場（通称「ナカドマ」）の機能を配した複合施設。中心市街地活性化の視点からの全国初の複合施設として認知度が高い。総事業費は約131億円、うち国補助29億円、地方債54億円、都市整備基金45億円、長岡市一般財源は3億円。

【市民協働・交流の場としての運営】

「市民協働センター」・「市民協働ネットワーク長岡」

NPO法人（2法人）の運営により、貸し会議室の予約業務だけでなく、市民活動を企画段階からサポートしているほか、長岡市内の市民活動団体の育成、支援、連携支援等を実施。

【「ワンストップ窓口」の実践】

- ・ 1階の総合窓口で約6割の手続きが完了する仕組み。来庁目的が複数所管に及ぶ場合でも、来庁者が各窓口へ移動することなく目的を達することができるよう、担当する職員が交代して1階での窓口対応を行う。
2階はバックヤードとなっており、必要に応じ、すぐに1階窓口対応ができるよう、中階段で繋がっている。
- ・ 市民中心の運営のためには、ハード面の整備のみならず、職員の意識改革も必要。毎年、おもてなし研修により職員のスキルアップを図っている。



市役所1階「なんでも窓口」。
複数部署にまたがる案件もここで対応。
1階に窓口が集約され、ワンストップでの
手続きが可能。高齢者や子連れも多い来
庁者目線の取り組みと言える。



アオーレ長岡の「ナカドマ」。
オープンな空間として夜間も開放。日常的
にキッチンカーが出店しているとのこと
で、視察時は2台の出店があったほか、テ
ラスでは高齢者や学生の利用が見られ
た。

【市民が利用しやすい空間】

「市民交流ホール・ナカドマ」

- ・ 雪国ということもあり、全天候型。1年を通して様々な活動ができる。
- ・ 利用しやすさを考慮し、一般市民の利用は無料。キッチンカー等、営利活動を行う場合も1日当たり、100円/㎡とし、出店を促し、賑わいを創出。
- ・ 場所貸の諸手続きはNPO法人に業務委託。

※その他、危機管理室の配置により災害時の機能を集約。

委員長所感
(意見・課題・本市
への反映など)

◎アオーレ長岡は平成24年のオープンからちょうど10年を迎える。整備当初は歩行者通行量の増加、空き店舗数の一時的な減少効果があったものの、30代以下の若者世代が郊外に転出する「まちなか離れ」、賑わいが市街地の一部に限定的である等の課題があるとのこと。今回視察した委員からも、平日日中の中心市街地の人のまばらさについて言及する感想が目立った。

このような状況下でまちなかへの人の流れを生み出そうとする場合、いわゆるハコモノだけでなく、継続的にぎわいづくりの仕掛け、サービス・認知策など利用者目線での工夫や、人を呼ぶための大胆な企業支援、店舗展開のための措置など複合的なソフト面での取り組みが重要であることを再確認した。今後「NAGAOKA WORKER」(リモートワークに関する取組)、歩行空間を利用した「まちカフェ」事業等が展開されるとのことで、「米百俵プレイス」の整備を契機に、

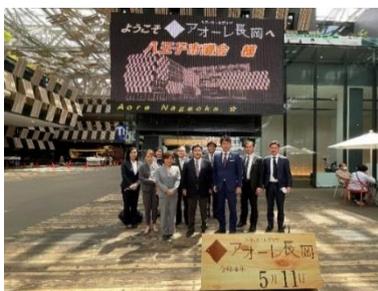
	<p>産官学金をつなぎ、まちなかに人の滞在を生み出す空間をどう作り出すのか、本市としても注目したい。</p> <p>また、中心市街地の活性化を考える上では、他エリアへの視点も必要である。長岡市は信濃川を挟んで市域が分かれており、対岸に大型店舗が目立つ印象。各エリアに対しどのようなニーズがあるのか、そして中心市街地に対する期待度がどのようなものなのか。中心市街地と他エリアをつなぎ、にぎわいを市域全体に波及させるための取組については本市でも考慮すべきポイントではないか。</p> <p>ナカドマを日常的に、多目的に利用できる空間として開放している点が印象的である。常時、自由に使えるテラスへのテーブル・イスの設置、大通りからアーリーナ方面までの平面上に開かれた空間は、自然と人が集う工夫の一つ。</p> <p>場所貸しについて、使用料を抑えることで事業者の出店に対するハードルを下げ、実力次第で売り上げがほぼ事業者の収益になるような仕組みは興味深い。また、場所貸しの手続き等実務面は事業者が担い、運営環境の整備等バックアップは市が行う等、官民連携による場所貸しのスキームは参考になった。</p> <p>新しい生活様式の中で、市民が安心して集える場所の提供と事業者が新たな経済活動にチャレンジする機会の創出が必要。双方の面において、長岡市から学ぶことができたと感じる。(馬場 貴大委員長)</p>
<p>副委員長所感 (意見・課題・本市への反映など)</p>	<p>◎ 駅近、ナカドマ、開放的な議場と、市役所のイメージを払拭するような、市民が集いやすい空間となっており、市民協働の窓口や運営体制をみても、市民とともに、市民のためにという市役所の姿勢が伝わってきた。</p> <p>メンテナンスや更新のことを考えると、特殊な建築にすることには費用面での懸念もあるが、木漏れ日のような陰影ができるナカドマの空間は、とても魅力的であり、雪国という特徴からは現実的であると思う。</p> <p>視察の後、「子育ての駅 ちびっこ広場」を訪問した。まちなか絵本館として、また、保育園の隣で連携をしており、冬の子育てや親のフォローをしていく意思を感じる環境であった。このビルを出る時に学生が2人で入ってきて、「勉強できる階段」に向かって行った。魅力的な場がどこもかしこも、ほぼ無料とのことで、八王子で良く聞かれる「受益者負担」の考え方と、市民生活の充実や活性化について、真のパブリックスペースとなりうるには？と考えさせられた。また、有名な長岡の花火は、8/1 長岡空襲で亡くなられた方々のへの慰霊であり、世界平和への祈りという大事なメッセージを受け取ることができた。(前田 佳子副委員長)</p>
<p>委員所感 (意見・課題・本市への反映など)</p>	<p>【中心市街地のまちづくりについて】</p> <p>◎ 市庁舎が(1カ所ではなく)市内の離れた位置に設置されているため、回遊性を持たせることができるとのことだったが、公共の機能は、ある程度集約されている方が良いとの感想を持った。(西室 真希委員)</p> <p>◎ 各自治体とも、少子高齢化に向け、真剣に活性化に取り組んでいる実態を把握できた。今後10年に向けてのまちづくりとして、若者が魅力を感じるような施設、子育て世代が、中心市街地でゆっくりと学び、コミュニケーションを取り合いながら過ごせる空間と人材育成に努めている点が印象的。(冨永 純子委員)</p>

- ◎ 市役所の機能をまちなかに移転しつつ、部・課によっては異なる建物、立地のことであったが、**デメリットもあるのではないか**。視察後、長岡市のまちなかを歩いたが、理想と現実は異なるという印象を受けた。(川村 奈緒美委員)
- ◎ 長岡市は柏崎刈羽原発の隣接自治体であり、にぎわいのあるまちであったが、今回の視察では状況の変化を感じた。現況を考えると、**賑わいを取り戻すための取り組みについては、難しい点もあるのではないか**。(相澤 耕太委員)
- ◎ 様々な自治体を視察し、学びを得てきたが、行政だけの力ではうまくいかない事例も多い。長岡市もアオーレ長岡周辺を離れると、シャッター通りなどが目立つ印象。本市行政職員にも、様々な事例を調査し、土地利用等について**民間力の活用、ふさわしい事業者の選定に徹してほしい**と感じる。(福安 徹委員)

【アオーレ長岡について】

- ◎ 市民を「お客様」として対応している点が印象的。子連れの来庁者等にとって利用しやすい動線の配慮、配置の工夫がなされていて良い。
 全天候型の施設整備が市民活動の活発化に繋がっている。
 施設使用料が整備に充てられるという仕組みもシンプルでわかりやすい。
NPO 法人により市民活動を育てていく運営の仕組みが素晴らしいと感じた。
 (西室 真希委員)
- ◎ ナカドマでの学生等の自由な学びのスタイルに感銘を受けた。市役所の仕組みとしては、おもてなしの心、**ワンストップで振り分け、市民は動かず職員が動くスタイルが素晴らしい。**(川村 奈緒美委員)
- ◎ 公共施設は造りが複雑であると清掃等がしづらいため、設計段階から**メンテナンスのしやすさ**も考慮すべき。本市集いの拠点整備にあたり、参考としたい。
 また、ナカドマは夜間も通行できるよう開放しているが、人通りの少なさを見ると警備や照明等、経費・運営上の課題もあると感じる。(相澤 耕太委員)

視察の様子



視察日及び視察先	5月12日(木) SnowPeak HEADQUARTERS(株式会社スノーピーク 本社)
視察項目	「自然を生かした地域の価値の創造について」 「官民連携による水辺空間の活用について」(ミズベリング信濃川やすらぎ堤)
概要	<p>【視察目的】</p> <p>株式会社スノーピークは新潟県三条市に本社を置くアウトドアメーカーであり、製品品質の高さや経営方針、企業理念等により国内外から注目を集めている。同社では地方創生事業として、官民連携による自然を生かした地域の活性化事業も行っており、新潟市「ミズベリング信濃川やすらぎ堤」の運営を担っている。</p> <p>本市における「水のまちづくり」の展開を見据え、都市における自然空間の魅力・価値の創造に精通した同社の取り組みについて学ぶため、視察を実施した。</p> <p>【視察要旨】</p> <p>1.屋外キャンプフィールド・SPA 施設視察</p> <ul style="list-style-type: none"> ・約5万坪のキャンプフィールド。 300弱程度のテントを設営可だが、スノーピークのキャンプスタイルを体感してもらうため、ハイシーズンであっても200組弱としている。 週末は約800人～1000人の利用者。 ・元々はゴルフのショートコースであった場所を活用。 フィールド、建物ともに地形を活かし環境負荷をかけない形で整備。 ・キャンパーのニーズ、ライフスタイルに合わせた仕様としている。 例えば、自宅でキャンプ用品を洗うスペースがないマンション居住者等のため、フィールド内の水回りはお湯も出るようにし、利便性を高めている。 <div data-bbox="1018 763 1465 1093" data-label="Image"> </div> <p>フィールド内には、好きな場所にテントを張ることができる「フリーサイト」の他、電源が仕様できるサイト、冷暖房・ベッドのついた木製トレーラーハウス(「住箱」)に宿泊できるサイトなど、様々な区画がある。</p> <div data-bbox="472 1480 948 1832" data-label="Image"> </div> <p>キャンプフィールド内にはミュージアムのほか、ギアが購入できるストアや、清潔なシャワールーム等も設置されている。 また、「手ぶらキャンプ」「手ぶら BBQ」など、道具を持たない初心者でも利用しやすいプランも用意されている。</p> <div data-bbox="991 1480 1465 1832" data-label="Image"> </div> <p>2022年4月に開業したキャンプ場隣接の複合型リゾート施設。温浴施設、地元の食材を活かした料理を提供するレストラン等を配置。設計はアオーレ長岡、京王線高尾山口駅舎を手掛けた隈研吾氏によるもの。 写真の軒屋根は焚き火をイメージした造り。</p>

2. スノーピーク会社概要（西村 康司 氏）

- ・企業理念（「The Snow Peak Way」）に基づき、社員教育を実施。企業成長に合わせ、近年は「物やサービス」の提供だけでなく、「体験・価値」の提供を目指すものに発展。
- ・文明の進化とともに人間性が低下しているのではないかと、との考えから『野遊び』で人間性を回復させること」を社会的な使命と捉えている。
- ・だたのキャンプ場ではなく、自由な発想で様々なプロジェクトを実施。本社内にもテントを置くなど、クリエイティブな仕事ができるよう工夫されている。
- ・製品価格は高めの設定であるが、ロングライフ・永久保証ゆえ。
- ・対面接客を重要視。・キャンプ場は全国7拠点。
- ・衣食住、働く、遊ぶという観点から様々な事業を展開。

3. 地方創生事業概要・事例（宮島 裕 氏）

【株スノーピーク地方創生コンサルティングによる事業展開】

スノーピーク子会社である「株式会社スノーピーク地方創生コンサルティング」により、地方創生事業を展開。地方創生資金を元にコンサルを行う案件が主。ソフト（地元の楽しさを見つける）とハード（「今風のキャンプ場」の整備）両面から地方の特徴を活かした取り組みを企画・提案・実施している。モニタリングキャンプとして依頼主と体験を共有し、課題を探るのがファーストステップ。

※ 参考事例

大分県日田市「スノーピーク奥日田」（旧ハイランドパーク）

高知県越智町「おち仁淀川」

長野県白馬村「ランドステーション 白馬」など

【一般社団法人「野遊びリーグ」による事業展開】

行政がハコものを作ったあと、ノウハウのある指定管理者がないという課題に対応するため、4年前に設立。地域活性化のための会員を募集し、協議会（野遊びリーグ）を作り、まちおこしの活動（キャンプ）の提案を行っていく。野遊びリーグ ⇒ NPO 法人設立 ⇒ 指定管理を担うという流れを目指す。



「野遊びリーグ」リーフレット

個人の楽しみから他の個人につなげ、地域チームを作りまちの活動に繋がり、行政を動かすというボトムアップが真の地方創生であるとの考え。現在、全国11地域チーム。個人加入、年1万円。野遊びリーグ所有のギアを無料で使用可。

上場企業の立場ではなかなかできない、足の軽い・利益を追求しない取り組みである。市民活動の動きがある場合、こちらを活用するという手もある。

	<p>4. 新潟市ミズバリング信濃川やすらぎ堤概要（西條 拓一 氏）</p> <p>【ミズバリング信濃川やすらぎ堤について】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新潟県新潟市中央区の信濃川本川下流域に於いて整備された親水型堤防。 ・1980年代に着工した親水型堤防 ・2017年 公募型プロポーザル方式により(株)スノーピークが選定、同社のコンテンツを河川空間に取り込む。焚火トーク、屋外ミーティング、キャンプオフィスその他、地元企業の提案を取り入れた水上コンサート、結婚式等、数多くのイベントを実施。 <p>【運営上の課題】</p> <p>天候による左右・平日と週末の集客ギャップが課題。また、仮設店舗での運営の限界がきているが、十分な平地がないため、出店者の投資でハード整備（デッキの設置等）をしており、その負担が大きいことから新規参入が困難。</p> <p>スノーピークとして管理としての回収一家賃としていただいているが、実は営利活動としては成り立っていないのが現状。</p> <p>全国的な成功事例としての認知度は高いため、社のPRになっていることは間違いない。</p> <p>【行政との関わり】</p> <p>スノーピークと河川管理者の間に複数機関が挟まることにより、許可申請等の手続きがスムーズにいかず、コンサルでありながら、事務作業におわれてしまう。また、伝言ゲーム状態になり、認識のずれが発生。さらに、行政側の庁内の横のつながりや協議会等も絡むことにより、よりスキームが複雑化しているため、関係組織を簡略化してほしいと感じる。</p> <p>先進事例がないと前に進まないという点をクリアしていけるかが課題。</p> <p>行政のかわまちづくりの事業計画が、計画どおりでないこともある。これが計画通りに整備されるだけで、スノーピークとしては大変やりやすくなる。</p> <p>インフラについては、民間での初期投資は及ばない為、官にやっていただきたいと考える。</p>
<p>委員長所感 (意見・課題・本市への反映など)</p>	<p>◎ アウトドアブランドとして名高い同社が、地方創生事業として自治体の地域づくりに貢献している点、「衣」「食」「住」「遊」「働」というキーワードで社会的な問題に対峙し、課題解決を試みる姿勢・取組は大変興味深かった。企業理念、個別的な取組の他、自治体と連携する上で事業者側が抱える困難、課題について生の声を聴くことができ、また、同社のホスピタリティからも学ぶことが多く、大変有意義な視察となった。</p> <p>今回の視察を通し、スノーピークのブランディングが、地域のイメージづくりに大きく影響を与えている状況を確認することができた。民間ならではの視点で、その地域の特性を最大限に高める手法は、本市にも活かすべき点が多い。例えば、織物×スノーピーク、地酒×スノーピークといったコラボレーションのほか、持続可能なまちづくりの観点から、担い手は地域とした上で、同社からノウハウを得るなど、様々な展開が考えられる。</p> <p>また、本市では、本格的な登山を楽しめるハードな山や、広大なフィールドと</p>

	<p>いった環境は無いものの、四季を気軽に楽しめる高尾山や、水面に近づきやすい自然河川、湧水など、生活に身近な自然環境が豊富にある。本市の豊かな自然を効果的にブランディングすることで、市の魅力をアピールするだけでなく、自然環境の尊さを広く周知し、市が誇れる魅力的かつ持続可能な空間創出の可能性を感じた。</p> <p>特に、自治体の抱えるキャンプ場を、利用者目線に立った魅力的な空間へと黒字転換させる事例については注目したい。スノーピークブランドが持つ集客力はもとより、ハード面の整備と合わせ、近年のキャンパーの志向や、非キャンパーも含めたニーズ、コロナ禍における暮らしの変化等を捉えたコンテンツは大いに参考にすべきと感じた。(馬場 貴大委員長)</p>
<p>副委員長所感 (意見・課題・本市への反映など)</p>	<p>◎ スノーピークの企業理念には大いに共感する。本体企業だけでなく、市民活動の分野では、「野遊びリーグ」、多分野とのコネクトの部分では、子会社の「スノーピーク地域創生コンサルティング」と、3つの立場からのお話しが聞け、有意義であった。</p> <p>かわまちづくりの事業者として関わっている現状の良い点も悪い点もお話し頂け、営利事業とはなりえないところを企業としてどう考えるのか、どう変えていくのか。行政も共に、事業の目的と運営手法を検討していかなくてはならないと感じた。</p> <p>翌日の隙間時間に、実際に信濃川やすらぎ提をレンタサイクルで走った。足場の良い広場や、屋根付きのベンチ、なだらかな草原、常設の店舗、公衆トイレなど、イベントのない日常との連動性がイメージできた。八王子においては河原を使うということを、希望する民間や市民、任意団体が担うことができる仕組みづくりということになるかなと想像した。町中のリバーサイドで集う、楽しむというイメージが湧き、参考になる取り組みを共有できた。(前田 佳子副委員長)</p>
<p>委員所感 (意見・課題・本市への反映など)</p>	<p>◎ 直接スノーピークの方に、話を伺うことができ、大変貴重な経験であった。</p> <p>「生活の中に遊びを位置づける「野遊び」の企業理念が素晴らしく、年齢問わず自然に親しむという点に感動した。燕三条の産業や地域の地酒等、企業とのコラボレーションが多くなされており、企業との連携により八王子市をブランディングする観点から、とても良い事例を拝見できた。</p> <p>ミズベリング事業に関しても、担当者から直々に話を伺うことができ、課題について具体的に聞いたのが良かった。</p> <p>本市でこれから予定している水辺活用の社会実験にも協力を得たいと感じたほか、私たちが知っている八王子市とはまた異なる角度から本市を見ていただき、具体的な提案をいただきたい。我がまち八王子の思いがけないポテンシャルを発見し、さらなる地域経済と産業のコラボレーションに関するノウハウ等を教えていただき、本市で吸収できることをどんどん吸収していきたいと感じた。(西室 真希委員)</p> <p>◎ できることをできるタイミングで行動する民間の若い力と、その姿勢に共感した。行政のタイミングと合えばさらに良いものができると思うが、この都市</p>

環境委員会の視察がちょうどその時ではないか。知ることで郷土愛が生まれるため、(本市とスノーピークの間で) 素晴らしいことが進められる場合には、**周知をしっかりとっていくことが重要**であると感じた。(川村 奈緒美委員)

◎ 「野遊び」というものを自分たちのライフスタイルにどう位置付けるかという点に関し、スノーピークの企業としての御努力を感じた。野遊びを人生の中で重要な価値のある行為だということを生活の中に位置づけようという、新たな文化の創造のための挑戦であると思う。同社製品の価格設定を見ると、**行政の計画の中でどう位置付けるかは検討する必要がある**のではないかと感じた。(鈴木 勇次委員)

◎ スノーピークの視察はとても印象的であった。行政側が民間の知恵をいかにチョイスしていくかという観点から、非常にエッセンスがあったと感じるため、**民間の知恵は今後も活用してほしい**と感じる。(渡口 禎委員)

◎ 今後の人口減少に伴う税収縮小も見据えると、民間委託により人件費を抑える等、**いかに財政支出を押さえるか**考えていかなければならない。例えば清掃事業等も民間委託により、市の事故件数の減少にもつながるのではないか。

民間のアイデアを吸収するため、行政でも積極的に視察をおこなうべきである。(福安 徹委員)

視察の様子



視察日及び視察先	5月13日(金) 新潟市
視察内容	官民連携による水辺空間の活用について（ミズベリング信濃川やすらぎ堤）
概要	<p>【視察目的】</p> <p>2011年の河川占有許可準則の改定により、河川区域において民間事業者等による企業活動が可能となったが、新潟市では、信濃川の河川敷「ミズベリング信濃川やすらぎ堤」において、民間事業者による利活用事業を展開している。同事業に関し、地域の合意形成を図るため協議会が設けられており、本市における「水のまちづくり」の展開を見据え、事業スキーム、協議会の設立を学ぶため、視察した。</p> <p>【視察要旨】</p> <p>1. ミズベリング信濃川やすらぎ堤における公民連携 …（都市政策部 まちづくり推進課）</p> <p>※ 信濃川やすらぎ堤概要</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 区間：延長約 4.5 km ・ 昭和 62 年より、洪水被害を防ぐこと、及び良好な水辺環境の創出を目的とし、全国初の 5 割勾配の緩やかな斜面を持つ堤防として国交省により整備。 <p>それに合わせ、新潟市が緑地を整備し、堤防と一体的な水辺空間を演出。</p> <p>【事業概要】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ H28 信濃川やすらぎ堤においてミズベリングの取り組み開始。「信濃川やすらぎ堤利用調整協議会」が発足。 ・ H29 からは民間事業者によるマネジメントを本格運用。 ・ 令和 2 年度より、㈱スノーピークと 3 年契約を締結。 <p>民間事業者からの提案を取り入れつつ、河川敷・水上での様々な事業を展開。（例）キャンプ宿泊事業、キッズウォーターパーク、サップ、水上結婚式等</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ スノーピークマネジメント下での事業展開に際し、行政の支出はなく、逆に公園使用料を得ている。 ・ 今後は令和 5 年度以降のマネジメント事業者の公募を実施予定。 <p>【市と民間事業者の役割分担】</p> <p>新潟市 ➡ 河川管理者の対応、ハード面整備、地域住民への広報等 事業者 ➡ 出店者の募集、運営管理</p> <p>【効果と課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 民間事業者の知見を活かし、魅力的、統一感のある取組みを実施できた。 ・ 年々取組みが市民に浸透し、体験への価値が高まっている。 ・ コロナによる影響はあったものの、新たな観光スポットとして、経済的な成果が生み出されているとし、令和元年度に「かわまち大賞」を受賞。



新潟市資料
「ミズベリングやすらぎ堤における公民連携」・「公募型プロポーザル実施要領」

	<ul style="list-style-type: none"> ・事業者からは天候に左右されやすい、またコロナの影響により、事業実施や収支が安定しないとの声がある。 ・今後は、持続可能な実施体制及び、コロナ禍での経験を踏まえ、単純に利用者数だけに頼らない、新たな評価指標を検討していく必要がある。 ・平場で出店可能なスペース、トイレの追加整備について検討要。
<p>委員長所感 (意見・課題・本市への反映など)</p>	<p>◎ 住民が河川と密接な暮らしをしてきたという背景から、河川空間に親しめるような堤防づくりに力を注いできた同市の取り組みを学ぶことができた。</p> <p>勾配の緩やかな親水護岸の特徴を活かし、景観を楽しめ、滞在できる店舗の誘致、イベントの開催がなされている。河川空間での事業展開に際し、当初は周辺住民からの苦情が多かったとのことであるが、民間事業者の参入や、行政の地道な周知活動により、受け入れられるものに変化してきたという経過が印象的。</p> <p>利用調整協議会などの第三者機関も設けられており、地域に丁寧に耳を傾け、地域を取り込む姿勢、スキームは参考としたい。</p> <p>また、スノーピークのマネジメントにより、財政面での行政側の負担は少ないとのこと。民間力を活用し、最小の負担で最大の効果を発揮させる手法について学ぶことができた。</p> <p>コロナ禍により、ここ数年は事業評価が難しいとのことである。新しい生活様式、新しい価値観を捉え、先を見越した柔軟な対応が求められると感じた。</p> <p>(馬場 貴大委員長)</p>
<p>副委員長所感 (意見・課題・本市への反映など)</p>	<p>◎ 日本一長い河川信濃川の河口についてのこれまでの変遷を知ることができ、興味深く聞いた。かわまちづくり、ミズベリングについては、2日目のスノーピークの話聞いたあとで、3日目に行政側からの説明を聞き、理解が深まった。</p> <p>かわまちづくりに手をあげ、国交省と基本的なハード整備を行ったことで、基盤ができていると思った。八王子市においては、かわまちづくりまで事業を大きくしないとしても、トイレ、水場、電気などの必要な整備について、進めることができたなら、多くの市民に利用される場となるであろうと感じるので、費用がかかり、進めにくい部分を進めていきたいと思った。(前田 佳子副委員長)</p>
<p>委員所感 (意見・課題・本市への反映など)</p>	<p>◎ 最も印象的なのは、民間企業がやりたいようにやれることを、行政がしっかりと支えている点。ここが事業成功の鍵であると感じる。(冨永 純子委員)</p> <p>◎ 水上の結婚式、婚活事業等、信濃川のイベントについて、地域のニーズを具体的に形にしている点が印象的。行政と民間の連携の上で、吸収できる体制づくり等、行政側にもできることがもっとあると感じる。(渡口 禎委員)</p>
<p>視察の様子</p>	
<div style="display: flex; justify-content: space-around;">   </div>	